

科目名	教職実践演習	科目コード	W61019		単位数 時間	2単位	対象 学年	4年	開講 学期	後期
		科目ナンバリング	T-TLPR4-01. NK			30時間				
区分	資格関係科目	担当者名	奥野 武志・川村 泰弘・佐藤 萬昭				授業 形態	演習	オムニバス	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕									
到達 目標										
授 業 計 画										
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修						備考		
第1回	別 紙 掲 載									
第2回										
第3回										
第4回										
第5回										
第6回										
第7回										
第8回										
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
評価 方法 及び 評価 基準										
課題等										
事前事後 学修										
教材 教科書 参考書										
留意点										

科目名	教育実習(事前・事後の指導を含む)(中学)	科目コード	W61013		単位数 時間	5単位	対象 学年	4年	開講 学期	通年
		科目ナンバリング	T-TLPR4-00. NK			150時間				
区分	資格関係科目	担当者名	奥野 武志				授業 形態	実習	オムニバス	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕									
	〔キーワード：教育実習、現場体験〕 中学校や高等学校で数週間教師として実習を行う。その前後に事前指導と事後指導があり、事前指導では講義や現役教諭の講演を通して教育現場の理解を深め、過去の教育実習で生じた出来事等をもとに留意事項を確認する。事後指導においては、実習の反省、情報交換を行う。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3及びカリキュラムポリシーの2に関連する									
到達 目標	事前指導においては教育実習が支障なく進むよう留意事項を確認する。事後指導においては、教育実習での反省点を話し合い、教育現場および実習生の指導上の問題点について議論を行う。									
授 業 計 画										
回	主 題	授業内容(授業時間外の学修を含む)	備考	回	主 題	授業内容(授業時間外の学修を含む)	備考			
第1回	事前指導	教育実習の意義		第16回	実習	教育実習				
第2回	事前指導	教育実習における留意点		第17回	実習	教育実習				
第3回	事前指導	現役中学校教諭による講話		第18回	実習	教育実習				
第4回	実習	教育実習		第19回	実習	教育実習				
第5回	実習	教育実習		第20回	実習	教育実習				
第6回	実習	教育実習		第21回	実習	教育実習				
第7回	実習	教育実習		第22回	実習	教育実習				
第8回	実習	教育実習		第23回	実習	教育実習				
第9回	実習	教育実習		第24回	実習	教育実習				
第10回	実習	教育実習		第25回	事後指導	各自体験報告				
第11回	実習	教育実習		第26回	事後指導	問題点を抽出				
第12回	実習	教育実習		第27回	事後指導	問題点について議論				
第13回	実習	教育実習		第28回	事後指導	今後の課題を抽出				
第14回	実習	教育実習		第29回	事後指導	今後の課題について議論				
第15回	実習	教育実習		第30回	総括	これからの人生に教育実習を生かす				
評価 方法 及び 評価 基準	事前・事後指導出席点とレポート評価点(50点)と教育実習校返送評価点(50点)を総合的に勘案して評価する。特に、教育実習に自ら主体的に取り組んでいるかどうか、実習生として相応しい見識と能力を身につけているかどうか、の2点を重点的に評価する。									
課題等	授業で指示します。									
事前事後 学修	事前指導は3回に分けて、(1)教育実習中の諸注意、(2)現場の教員による教育現場の実際を中心に行う。事後指導は2回に分けて、(1)各自の教育実習の総括、(2)今後の教育現場の理想の姿を探索する。									
教材 教科書 参考書	教育実習ファイル(事前指導初回に配布)									
留意点	事前指導、事後指導に正当な理由なく欠席すると、教育実習をしても単位を認定しないので注意すること。									

科目名	教育実習(事前・事後の指導を含む)(高校)	科目コード	W61014		単位数 時間	3単位	対象 学年	4年	開講 学期	通年
		科目ナンバリング	T-TLPR4-00. NK			90時間				
区分	資格関係科目	担当者名	奥野 武志				授業 形態	実習	オムニバス	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕									
	〔キーワード：教育実習、現場体験〕 中学校や高等学校で数週間教師として実習を行う。その前後に事前指導と事後指導があり、事前指導では講義や現任教諭の講演を通して教育現場の理解を深め、過去の教育実習で生じた出来事等をもとに留意事項を確認する。事後指導においては、実習の反省、情報交換を行う。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3及びカリキュラムポリシーの2に関連する									
到達 目標	事前指導においては教育実習が支障なく進むよう留意事項を確認する。事後指導においては、教育実習での反省点を話し合い、教育現場および実習生の指導上の問題点について議論を行う。									
授 業 計 画										
回	主 題	授業内容(授業時間外の学修を含む)	備考	回	主 題	授業内容(授業時間外の学修を含む)	備考			
第1回	事前指導	教育実習の意義		第16回	実習	教育実習				
第2回	事前指導	教育実習における留意点		第17回	実習	教育実習				
第3回	事前指導	現役中学校教諭による講話		第18回	実習	教育実習				
第4回	実習	教育実習		第19回	実習	教育実習				
第5回	実習	教育実習		第20回	実習	教育実習				
第6回	実習	教育実習		第21回	実習	教育実習				
第7回	実習	教育実習		第22回	実習	教育実習				
第8回	実習	教育実習		第23回	実習	教育実習				
第9回	実習	教育実習		第24回	実習	教育実習				
第10回	実習	教育実習		第25回	事後指導	各自体験報告				
第11回	実習	教育実習		第26回	事後指導	問題点を抽出				
第12回	実習	教育実習		第27回	事後指導	問題点について議論				
第13回	実習	教育実習		第28回	事後指導	今後の課題を抽出				
第14回	実習	教育実習		第29回	事後指導	今後の課題について議論				
第15回	実習	教育実習		第30回	総括	これからの人生に教育実習を生かす				
評価 方法 及び 評価 基準	事前・事後指導出席点とレポート評価点(50点)と教育実習校返送評価点(50点)を総合的に勘案して評価する。特に、教育実習に自ら主体的に取り組んでいるかどうか、実習生として相応しい見識と能力を身につけているかどうか、の2点を重点的に評価する。									
課題等	授業で指示します。									
事前事後 学修	事前指導は3回に分けて、(1)教育実習中の諸注意、(2)現場の教員による教育現場の実際を中心に行う。事後指導は2回に分けて、(1)各自の教育実習の総括、(2)今後の教育現場の理想の姿を探索する。									
教材 教科書 参考書	教育実習ファイル(事前指導初回に配布)									
留意点	事前指導、事後指導に正当な理由なく欠席すると、教育実習をしても単位を認定しないので注意すること。									

科目名	教育実習（特別支援）		科目コード	W71014	単位数 時間	3単位	対象 学年	4年	開講 学期	通年
			科目ナンバリング	W-KYT03-14.		45時間				
区分	教職科目（特別支援）	必修	担当者名	川村 泰弘			授業 形態	実習	単独	
授業の 概要	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>知的障害、肢体不自由、病虚弱を教育領域とする特別支援学校で二～三週間の教育実習を行う。 教育実習生としての心構えを持つことができるよう、講義や映像資料を通して教育現場への理解を深めるための事前指導を行う。 事後指導においては、実習全般及び研究授業等についての反省を踏まえて、改めて目指す教師像を確立する。 これらをとおして、教育実習の意義を理解する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの3及びカリキュラムポリシーの4に関連する</p>									
	到達 目標	<p>（事前） 1 学校教員としての基礎的なマナー、校務分掌等の校内組織の役割、教材研究の方法の理解、学習指導案の作成と模擬授業（ICT機器の操作等を含む）を通して、教育実習を実施するに必要な基礎的能力を身につけることができる。</p> <p>2 教育実習に臨むための留意事項を確認し、教育実習生としての心構えを持つ。</p> <p>（実習） 3 教育実習を通して、これまでに学習した理論・方法を活用して、特別支援学校教諭を目指す者として必要な、障害のある生徒に対する見方・知識・態度などを学び、指導力をつける。</p> <p>(1) 生徒とのふれあいや実習校の指導教員の指導を通して、障害のある生徒の理解を深める。</p> <p>(2) 求められる知識・技能・態度を学ぶ。</p> <p>(3) 特別支援教育の指導者としての使命感を養い、あるべき教師像を持つ。</p> <p>（事後） 4 実習指導教員及び実習校教員による指導を踏まえて、実習の整理と報告をとおして自らの授業、生徒指導、学級経営等について振り返り、教員としての適性を確認するとともに課題を整理し、改善方法を考察する。</p>								
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	事前指導①ガイダンス 教育実習（特別支援教育）の意義			教育実習の目的と意義を確認する。				手引を配布する		
第2回	事前指導② 特別支援学校教員の一日			教職員の勤務、服務、授業、学級事務等についての理解を深める。						
第3回	事前指導③ 学習指導案の作成			サンプルを基にした学習指導案の作成と発表・協議を行う。						
第4回	事前指導④ 模擬授業			作成した学習指導案による模擬授業の実施・協議を行う。						
第5回	事前指導⑤ 記録の作成と活用			実習日誌の記入や記録の取り方・活用の仕方を理解する。						
第6回 ～ 第27回	特別支援学校における教育実習			実習校における教育実習（研究事業・授業研究を含む）に臨む						
第28回	事後指導① 教育実習の成果と課題			教育実習により得た成果と課題等をまとめる。				レポート作成		
第29回	事後指導② 実習の体験発表			「レポート：特別支援学校の教育実習で学んだこと」の報告会を行う。				レポートの提出		
第30回	事後指導③ まとめ			「目指す教師像」をまとめる（履修ファイルへ綴じ込む）。						
評価 方法 及び 評価 基準	教育実習校の評価（70%）と事前・事後指導の演習・発表・レポート（30%）を加えて総合的に判断する。									
課題等	体験発表の際には、示された様式のレポートに加えて研究授業で作成した学習指導案や用いた教材・教具等を用意すること。									
事前事後 学修	予習：シラバスを見て、次時の内容に関する「実習の手引」の該当箇所を読み、考えをまとめて授業に臨むこと。 復習：その日の学習内容に関するポイントを振り返りシートにまとめること。									
教材 教科書 参考書	教科書：学内資料『教育実習（特別支援学校）の手引』を配布する。									
留意点	実習校の校長、教頭、教育実習主任、指導教員の指導・助言を素直にかつ誠実に受け止めるよう努めること。 社会人としてふさわしい態度・服装・言葉遣いに留意すること。 「豊かな発想、確かな指導力」を念頭に、教員としての資質能力を高めるよう、積極的な実習生活を期待する。 ※実習先である特別支援学校の配属学部に関する学習指導要領とその解説は常に持参すること。									